■今月の特選句

2015年1月

一年の計を立てむと寝正月　永島董玉

「一年の計」のプラスに、「寝正月」のマイナスイメージですね。その取り合わせが滑稽を生む。「一年の計の初めの寝正月」。最高じゃんか。

霜柱地価十億を持ち上げる　菅野あたる

十億円の土地だとて霜柱のパワーには敵わぬ。「持ち上げる」に「おだてる」の意味あり。霜が溶ければ、「霜の溶け十億の土地暴落か」。

柱から尻尾の見ゆる漱石忌　小林英昭

柱の影に猫。こういうつくり話は楽しいねえ。文芸は、如何に上手に嘘をつくか。であります。「胃薬を机上にこぼし漱石忌」。なんてね。

寄鍋を打算が囲み懇親会　金澤　健

損得抜きだからこの会は楽しいですね、部長。さあ、ぐっとぐっと。部長、この肉が柔らかいっすよ。部長、春菊も。「寄鍋に胡麻摺り競ひ懇親会」。

頓智てふＩＱ高し一休忌　麻生やよひ

一休さんのＩＱが高い筈だという推定を、断定にした一句。間に合い口上で切り変えるのが巧みだったのかも。「一休の頓智は一級一休忌」。

神の留守亭主を裁く山の神　柳　紅生

「山の神」は眼に見えるだけに恐ろしいのである。神の留守中、山の神は最高権力者で、領収証一枚まで調べる。「山の神あんたも出雲へ行きなさい」。

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の秀逸句　（・・・七七をつけてみました）

電池切れスマホが死んで口寒し　粟倉健二
・・・スマホはおなか空かしていたよ

女捨て大音響のくさめかな　井口夏子
・・・次の瞬間熟女に戻る

二人して猫が苦手や漱石忌　越前春生
・・・ともに苦手で意気投合か

開戦日いやレノン忌とぞ揉めてゐる　田中早苗
・・・それじゃこの日を「揉め忌」としよう

障害物またぎ炬燵に入りにけり　津田このみ
・・・障害物は人体だろう

大根をさっぱり洗ふ無精髭　久我正明
・・・洗いあげたる大根の髭根

冬籠インターホンと会話して　久松久子
・・・訪問販売お断りです

宅配の声に勢い年の暮　梅岡菊子
・・・職歴多分鮮魚販売

年中が閉店セールの年果つる　小泉花子
・・・新しい年閉店はじめ

去年今年老若男女紆余曲折　工藤泰子
・・・延長戦は未年廻しに

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

無駄使い七百億の師走かな　細川岩男
・・・アベノミクスの先手必勝

老いらくの恋敵ゐる日向ぼこ　松井まさし
・・・日向ぼこりに着火するやも

年忘れ馴染まぬ靴で帰りけり　大澤酒仙奴
・・・誰かがやはり困っているよ

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

■今月の滑稽句

	来年の福掻き寄せる熊手買う	青木輝子
【佳作】	煤籠デーサービスに追いやられ	青木輝子
	寄鍋になんでもありのわがや流	青木輝子
	辛抱を精一杯に去年今年	青山桂一
	白鳥の着地はまさに落下傘	青山桂一
【佳作】	救急車銀杏落葉を浴びながら	青山桂一
	食べること一番愉し暮の秋	秋月裕子
【佳作】	吾も寄る枯山水のにぎわいに	秋月裕子
	訳もなくむせたり涙ぐむ師走	秋月裕子
【佳作】	先競ふごとき音たて木の実落つ	麻生やよひ
	隙間風閉じたる筈の心にも	麻生やよひ
	宝くじまたも外れて神の留守	有吉堅二
	日向ぼこきのふの話けふもまた	有吉堅二
【佳作】	寒い夜猫でも飼おうかと思ふ	有吉堅二
	遊園地滑り台に乗る冬日かな	粟倉健二
【佳作】	はやぶさの天に家無し帰りこよ	粟倉健二
	短日やタマに店番頼みけり	飯塚ひろし
	日向ぼこあの世の使者は追ひ返す	飯塚ひろし
【佳作】	方丈は師走の街へ行ったきり	飯塚ひろし
	微笑んで金歯銀歯のちゃんちゃんこ	井口夏子
【佳作】	手招かれ入りたくない枯尾花	井口夏子
	勤労日己れをほめて一人酒	池田亮二
【佳作】	三角関係焼芋蛸焼女子高生	池田亮二
【佳作】	熟れ柿や枝の上にて即身仏	伊藤慈秀
	霧深し深山もみじはスカートの中	伊藤慈秀
	老い人や冬の蝿連れ受診かな	伊藤慈秀
	霜月は行方不明よもう師走	伊藤浩睦
	ハロウィンの仮装に疲れ神無月	伊藤浩睦
【佳作】	高血糖喰ひ過ぎてゐる薬喰ひ	伊藤浩睦
	聞くうちに聞かぬ素振りす冬うらら	稲沢進一
【佳作】	元旦や餅はいくつと問はれても	稲沢進一

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	枯芒風の道筋ありにけり	稲沢進一
	木の葉雨想定外の風吹いて	井野ひろみ
	銀杏散る大樹のヌード骨太し	井野ひろみ
【佳作】	紙幣なら数え切れぬや銀杏散る	井野ひろみ
	百寿者も萬を超したる敬老日	入江澄泉
【佳作】	大根切る姉健やかに足太し	入江澄泉
	小鳥来て露語と邦語で鳴き交わす	入江澄泉
【佳作】	神様も女子会するや神あり月	上山美穂
	粉雪の綿菓子になる帰り道	上山美穂
	猫のストリップ毛皮のコート付き	上山美穂
	恵方道交通整理の氏子衆	氏家頼一
	白兎二円切手を跳び出せり	氏家頼一
【佳作】	大股で歩く女や日脚伸ぶ	氏家頼一
	冬桜百日を咲き一畳忌	梅岡菊子
【佳作】	風か小鳥かコスモス揺らすのは	梅岡菊子
【佳作】	半分の冬至南瓜をもてあます	越前春生
	クリスマス下戸の己れも止り木に	越前春生
【佳作】	風邪ひきのそそられず聞く啖呵売	大澤酒仙奴
	冷え性の妻より湯たんぽ愛しけり	小川飩太
【佳作】	タレントがするよなデカいマスクかな	小川飩太
	形だけは一丁前の裸木かな	小川飩太
	ポスターに捲土重来片時雨	奥脇弘久
	野放図に伸びて微笑む冬薔薇	奥脇弘久
【佳作】	冬至とて今一たびのへぼ南瓜	奥脇弘久
	日向ぼこ父の股間の温かりし	笠　政人
	昔筆今はパソコン賀状書く	笠　政人
【佳作】	新日記えらびて邪気に嗤はるる	笠　政人
	野良猫や銀杏落葉で装ひし	加藤澄子
	段畑やミカンの黄を灯しゐる	加藤澄子
【佳作】	強風になぶられまいとして野菊	加藤澄子
	政局を語って聞かす焼栗屋	加藤　賢
【佳作】	木守柿なまじ残して空淋し	加藤　賢

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	焚火爆ぜ犬が驚き唸りけり	加藤　賢
	浪曲のセリフ長すぎ年の暮れ	門屋　定
	雑草のはなかたばみも合揺れて	門屋　定
【佳作】	お地蔵さん村見守って冬に入る	門屋　定
【佳作】	踏ん張って引抜く足も大根かな	金澤　健
	山眠るまへに欠かせぬ睡眠薬	金澤　健
【佳作】	秋深き老老散歩の犬と人	川島智子
	診察券ふえて忙しい師走かな	川島智子
	吊し柿甘くなるころ食べらるる	川島智子
【佳作】	マスク外さず口出してお節介	菅野あたる
	ちゃんこ鍋もやして減らす体脂肪	菅野あたる
【佳作】	父さんが居るも居ないも神の留守	久我正明
	人妻と結びし指や秋収め	久我正明
	向日家並ぶ窓際日向ぼこ	工藤泰子
【佳作】	松葉蟹のせて華麗なカレーかな	工藤泰子
【佳作】	目薬の封も開けずに冬眠す	黒田忠一
	パソコンに賀状任せて知らん顔	黒田忠一
【佳作】	秋の蚊の手助けしたき心地して	小泉花子
	寒月や東司の電球切れにけり	小泉花子
	噛み切れぬ木の葉いちまい狸汁	小林英昭
【佳作】	熱燗にひき寄せらるる目鼻口	小林英昭
【佳作】	奇抜ならなんでもよろし更衣	酒井鹿洋
	連れしよんの仲間なつかし年忘	酒井鹿洋
	季語入れてホ句卒業や五七五	酒井鹿洋
	七変化みごとな甘さ干柿よ	佐藤義子
	初雪にくつ変え踊る幼児よ	佐藤義子
【佳作】	平等に積もる積もる初雪かな	佐藤義子
【佳作】	しぐれ忌に時雨は晴れてしまひけり	佐野萬里子
	合併後も伊賀と柘植にて芭蕉祭	佐野萬里子
	時雨来て最後の甘藷掘りにけり	佐野萬里子
	金遣ひ惜しむがごとく年惜しむ	下嶋四万歩

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

【佳作】	警策の肩凝に効く十二月	下嶋四万歩
	延命を拒むてふ人薬喰	下嶋四万歩
	なけなしの乳房誇大にセーター着	壽命秀次
【佳作】	純愛も不倫もありぬ菊人形	壽命秀次
	手も触れず美女医画面の感冒診断	壽命秀次
	河豚鍋に奉行句会の憂さ晴らす	白井道義
【佳作】	封じ込む口八丁や大マスク	白井道義
	何時よりかマスク美人と言はれけり	白井道義
	やわらかい大根を選んでいる鼻歌	鈴木和枝
【佳作】	横断歩道に哲学はいらない　急げ	鈴木和枝
	カメ虫にもいろいろあって冗談じゃない	鈴木和枝
	参考書ストーブつけて目を通す	鈴木哲也
【佳作】	初冬に実りの成果返事有り	鈴木哲也
	町中はコート着用淑女達	鈴木哲也
	万歩計下げて歩かず炬燵かな	髙田敏男
	化粧して隠す年輪初鏡	髙田敏男
【佳作】	ダイエットチャンス逃して三が日	髙田敏男
【佳作】	蓑虫の声は届かず摩天楼	高橋きのこ
	並び慣れ紅葉の寺のイルミネーション	高橋きのこ
	手鏡をそつとしまひし木の葉髪	高橋きのこ
【佳作】	立冬や老人の気を引締める	田中　勇
	小春日和や太子廊訪ねたる	田中　勇
	黒岩重吾を読むなる冬の虹	田中　勇
【佳作】	虎の子に羽が生えたりお年玉	田中早苗
	連呼の声耳に響けり蓮根堀り	田中早苗
	隙間風のやうな一言身の縮む	田村米生
【佳作】	寒卵呑まされ尻をたたかれる	田村米生
	いつ死ぬかわからないから日記買ふ	田村米生
	軒下に放り出されし古火鉢	津田このみ
【佳作】	風邪引きのとなり空席待ち合所	津田このみ
	憂さ晴らし忘年会も腹八分	土屋泰山
	膝掛けの猫背の君や大あくび	土屋泰山
【佳作】	ボーナスも給与も我も虎落笛	土屋泰山

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	忘れたき上司に酌や忘年会	都吐夢
【佳作】	水洟や又確かめる外れ籤	都吐夢
	その後になぜか一言大嘘	都吐夢
【佳作】	手袋を脱ぎて握手の温みかな	飛田正勝
	風の日も風の無き日も銀杏散る	飛田正勝
	縫初めの妻は背広のボタン付け	飛田正勝
【佳作】	可笑しくもなき上出来の福笑	永島董玉
	実千両役者気取のをとこきて	永島董玉
	大根を胴切にする割烹着	新島里子
【佳作】	ポインセチア真赤な嘘が咲いてゐる	新島里子
	初春やあと幾日でお正月	西をさむ
	初み空左のポッケにチューインガム	西をさむ
【佳作】	初夢の門松倒し初寝覚	西をさむ
	先生の足も笑いて師走かな	花岡直樹
	あと十日欲しいとサンタにお願いし	花岡直樹
【佳作】	パソコンもオンのままにて去年今年	花岡直樹
	なんきんと風呂の面倒みる日かな	原田　曄
【佳作】	一芸もなき飼ひ猫や日向ぼこ	原田　曄
	冬ともし爪きるつめがよく見えぬ	原田　曄
【佳作】	生きながらドライフラワー冬紫陽花	ひがし愛
	猪鍋につられて来たる句会かな	ひがし愛
	お多福の顔よ賀状の試し刷り	ひがし愛
【佳作】	招き猫に店番まかせ師走くる	久松久子
	短日やATMに忘れ物	久松久子
	段取りの帳尻合はず日短	日根野聖子
	一個だけと言いつつ三個蜜柑食ぶ	日根野聖子
【佳作】	眠くなる長い話と炬燵かな	日根野聖子
【佳作】	沢庵樽水満ち菌の香る納屋	藤岡蒼樹
	熱燗に臓物二人分片想ひ	藤岡蒼樹
	温泉治療の期待する冬の駒	藤岡蒼樹
【佳作】	漱石のくしやみが聞いてみたかった	藤森荘吉
	露天風呂あれば紅葉と混浴に	藤森荘吉

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	犬連れて株売りに行く小春かな	藤森荘吉
	もらいたる柚子一枚の葉っぱ付き	藤原セツ子
【佳作】	冬日さす馬上の父の軍服に	藤原セツ子
	呉須の絵の皿を選んで柿なます	藤原セツ子
【佳作】	情けある政治は何処に寒波来る	細川岩男
	空っ風銭乱れ飛びさ迷えり	細川岩男
【佳作】	この道に歩いた記憶紅葉寺	松井寿子
	この道や人もまばらな秋の山	松井寿子
	独居して家中飾りクリスマス	松井寿子
	忘年会絶望名人カフカ呼び	松井まさし
【佳作】	小春日を駈けて幼児の出べそかな	松井まさし
	胃散飲むほかに無為なり老いの暮	丸山紘一
	センセイが列島駆ける師走かな	丸山紘一
【佳作】	滑稽の森をさ迷ひ六年暮る	丸山紘一
【佳作】	悪意なく悪気のありて柿盗む	三橋百笑
	初雪や顔で受けてく登校生	三橋百笑
	初鏡しわは笑くぼと言ひきかす	三橋百笑
	賀状来る悪友と言ふ宝もの	宮森　輝
	木々は脱ぎすて人々は着ぶくれぬ	宮森　輝
【佳作】	冬帽子墓地突っ切って逢ひに行く	宮森　輝
【佳作】	花八手言いたい言葉が見つからず	百千草
	人の世は坂道ばかり冬うらら	百千草
	両足に叱咤激励して小春	百千草
	おお口をあけてあつめるあられだま	森岡香代子
	甘酒のねばりの熱さ喉の奥	森岡香代子
【佳作】	鼻声もすてきと言わせクリスマス	森岡香代子
	老い先は遅く来いこいお正月	森　要
	納め場所モンゴル悶語るまあいいか	森　要
【佳作】	歳忘れ忘年会の日を忘れ	森　要
	カタカナの花よく似合ふクリスマス	八木　健
【佳作】	せつかちも師走もさ行せせこまし	八木　健
	二股をかけた季語なり去年今年	八木　健

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。

	七五三御稚児さんとも呼びにけり	八洲忙閑
【佳作】	おふくろのつくりしふくろおでんかな	八洲忙閑
	師走ですベートーヴェンの第九です	八洲忙閑
【佳作】	別腹の三段重ね三が日	柳　紅生
	セーターの千の「の」の字を身に纏ふ	柳　紅生
【佳作】	柑橘の先鋒部隊早生みかん	山下正純
	寺ごとに紅葉飲み込む鏡池	山下正純
	陽の差して明かりを灯し紅葉笠	山下正純
	方言飛び交う小春日の農業祭	山本けい子
	ロッカーの鍵見つからず年の暮	山本けい子
【佳作】	葡萄一粒駅弁の終止符の	山本けい子
【佳作】	寒菊の黄の放ちゐる香りかな	山本　賜
	まきひげを話題にしない烏瓜	山本　賜
	ジョギングの息継ぐところ秋ざくら	山本　賜

滑稽俳句協会ホームページ掲載の記事・写真・イラストなど、すべてのコンテンツの無断複写・転載等を禁じます。